

第27回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会会議録

1 会 議 名 第27回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会

2 開催日時 令和4年3月28日（月）午後1時30分から午後3時

3 開催場所 一関市役所特別会議室

4 出席者

(1) 委 員 石川隆明委員長、齋藤清壽副委員長、千葉敏紀委員、小野寺愛人委員、
千葉光祉委員、鈴木淳委員、菅原幹成委員、村上秀昭委員、
千葉晃委員、菅原彰委員

(2) 事務局 小野寺啓事務局次長兼総務管理課長、
吉田健総務管理課長補佐兼施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事
Web参加 一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

5 議 事

- (1) 余熱活用について
- (2) ごみ処理に関する基本的な考え方について
- (3) リサイクル施設の基本的な考え方について

6 公開、非公開の別 非公開

7 協議内容

(1) 余熱活用について

事務局 前回の会議での意見等を踏まえて文言の整理をしたことから確認をお願いする。

また、4つの提案それぞれの実現性とその理由に関する記載を追加したので、確認をお願いするとともに、今後在具体案を検討する活用策を決定いただきたい。

（資料No.1により説明）

委員長 余熱活用の具体案の検討については、検討委員会では実現性が高い2案について進めていくこととする。具体案の詳細は、今後精査していくこととする。

(2) ごみ処理に関する基本的な考え方について

事務局 2月、3月に行ったごみ資源化ワーキンググループでの検討結果について報告する。これを受けて、これから提案内容について必要な調査等を事務局で行い、6月から7月にかけて検討委員会でまとめていきたいと考えている。

（資料No.2により説明）

委員長 組合と市町の役割分担は変えないことを前提に検討したということによいか。

事務局 そのとおり。

委員長 4ページの評価結果では、左上が良いということだと思うが、集団回収への誘

導や資源物の民間収集が提案に入っていないのはなぜか。

事務局 それらは既に実施しており、あとは程度の問題である。古着はイベント回収をしているが、提案は計画的収集するという内容である。指定ごみ袋の有料化は提案に入っていて、分別の細分化が提案に入っていないのは、これ以上の分別の細分化は現実的には難しいのではないかという意見があり、提案には至らなかったものである。

委員長 6 ページの課題解決の方向のところでは、かなり凝縮して記載してあるが、実務としてはかなりの業務量になると思われる。提案のあった3項目に取り組むとして、実施に移していくのはどのくらいの時期と見込んでいるのか。

事務局 指定ごみ袋の有料化とコンテナ回収は、新しい施設の稼働と同時くらいを目指すことになると思う。その場合は3年ぐらい前からアナウンスが必要と考える。古着の計画収集は、条件が整えば新施設の稼働を待たずに実施することは可能と思われるが、関係先と協議が必要と考える。

委員長 もう少し細部まで検討した内容が6月の検討委員会では提案されるという認識でよいか。

事務局 そう考えている。

委員長 かなりの業務量になると思われるため、進め方を検討すること。

委員 古着は条件が整い次第で、指定ごみ袋の有料化とコンテナ回収は新施設の稼働に合わせてという話であったが、古着の計画収集については、実際にイベント回収をやっているが引き取り先がかなり大変である。1回実施するのも大変である。指定ごみ袋の有料化は、住民や議会の理解というのはそのとおりであるが、全部のごみ袋を有料化にするのではなく、一家に年間何枚までは無料にするとか、赤ちゃんがいるところは無料にするというように、施設の稼働にかかわらず減量化していく必要はあり、早めに動けるのではないかと思う。コンテナ回収は、廃棄物減量化推進協議会などでご意見をいただくと、市街地では集積所に箱ものを置けないので、集積所に網をかけているところがほとんどであるので、なかなか難しいと思う。集積所の指定は市町であるので、かなり難しい。市街地は行わず、郊外のみ行うといった二重の対応になると収集業者も対応が難しいと思う。古着の計画収集や指定ごみ袋の有料化といったソフトの部分は、早めに検討できるのではないか。

委員 評価結果が左上にあって、今回の提案には含まれていなかった集団回収への誘導や資源物の民間収集も項目に入れてはどうか。コンテナ回収は良い取組と思うが、集積所の管理の関係もあり、ハードルが高いと感じる。

委員長 今も実施しているものをさらに推進していくというものと、新たに加えるものとは、ある程度順位を持たせる必要があると思う。まずこれはやっていくという順位をしっかりと定めたほうが良い。

委員 最初にごみから資源化できるものは何かを検討し、それからどうやって集めるかを検討して強化するというのも一つの方策と思う。

事務局 リサイクル施設に関係してくるので、回収の仕方や仕組みが、この地方で成り立つのかどうかも調査が必要と考えている。資源物の選別ラインを持つか持たないかというところが大きなところである。

委員 ごみ袋の有料化をすることによって、ごみの減量化が図られたという事例や実績はあるのか。

事務局 統計としての実績は、今は資料を持ち合わせていないが、ごみの有料化の方法にも、袋を有料化する、あるいはその色を変える、紙シールを作るなど様々な方法があり、多くの自治体がそうしたことに取り組み始めた。有料化した直後はかなり減ったが、時間が経つにつれてリバウンドで元に戻るということも社会的に議論をされたりしており、統計資料を調べてみないと、長時間、長期間の中でどうだったのかは回答が難しい。ただし、有料化の方向には進んでいる。先進的に実施したところでそのような課題がいくつか報告されているので、結論としては、統計的な分析も必要であるので時間をいただきたい。

委員長 検討を進めることとして、構成市町にも協力を依頼できる部分があればお願いしながら連携して進めること。

(3) リサイクル施設の基本的な考え方について

事務局 令和4年度にリサイクル施設の整備基本計画を策定する予定であるが、その前段として、リサイクル施設を整備して資源化を行う場合と民間の資源化ルートを活用する場合のメリット、デメリット等を整理したので確認をお願いする。

(資料No.3により説明)

委員長 この基本的な考え方は、リサイクル施設の整備基本計画に盛り込んでいくための基本的な考え方としてまとめたという理解で良いのか。

事務局 メリット、デメリットのチェックリストのようなものと考えている。資料に掲載している一つ一つの項目について検証を行い、導入可能な仕組み、できるだけ費用のかからない仕組みを考えていくため指標になるものと考えている。

事務局 昔のリサイクルは一つのビジネスであったため、民間が主体であった。ところが、高度経済成長期以降、逆に物の価値が下がってリサイクルビジネスがなかなか厳しくなってきた。典型的なのはバブルのときで、リサイクルというのはほと

んどなされずに廃棄された。そのようなことがあり、行政がリサイクルを安定させようということで介入していったことが経緯のように思う。それ以降、時間は経過しているが、原点に帰ってリサイクルを民間ビジネスになるべくシフトしていくという時代に今はあると思う。ただし、品目によって、アルミ缶のように価格の高いもの、あるいはプラスチックとの混合状態になっている食器などのような価格が低いものというように、価格が高い、低い、リサイクルし易い、し難い、量が多い、少ない、社会にリサイクルシステムが確立しているか否かなど多種多様であるため、どこに落とし込んでリサイクル施設を建設していくかはしっかり調査し、落としどころを見据えていかなければならないと考える。

8 担当課 総務管理課